

事業報告（第6期）

令和元年9月1日から令和2年8月31日

特定非営利活動法人

未来といのち

1. 2011年東北大震災後から福島県被災地と伴侶動物の様子を継続的にweb発信。
2. <記録を残す事業>、<伴侶動物支援をとおしての減災>を継続中。
3. 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 Web Archiving Project WARP に当法人の Home Page が収集保存され紹介されている（2019年1月より）。
4. 認定特定非営利活動法人としてより信頼され奉仕する団体として活動中。

<記録を残す事業>

5. 福島県の助成金事業：県内避難者帰還者心の復興事業の採択を受ける（2020年6月）。
6. 冠婚葬祭文化振興財団より：福島県内帰還困難地区の文化やふるさとの思い出の記録ビデオ保全のための助成金の採択を受ける。
7. 東北大震災の個人の被災体験談聞き取りを減災に役立てるため継続（福島県内）。
8. 特に帰還困難地区に指定された被災地区から震災前の地域の歴史、生活の様子、伝統芸能などの保全のため、各個人の持つ写真や資料の提供を住民と共に収集。

専門的に特殊スキャニング～電子媒体保全。提供者には保全した電子媒体のコピーと元の資料を返却、共有。今期は浪江町津島・小丸地区、飯館村長泥地区、川俣町山木屋地区、葛尾村を中心に資料収集。

9. 浪江町南津島において震災直前まで継承されていた葬祭について、資料を地域住民 が集めて保全の開始。
10. 2019年11月30日、12月1日に福島市民会館で交流会とパネル展開催。
2020年3月21.22日に コラッセふくしまにて交流会とパネル展開催。
その後は、コロナ禍にて秋に予定したパネル展と交流会は自粛。
11. 主にリモートで各地区住民の交流を支援。
12. 浪江町津島・川俣町山木屋地区、葛尾村など阿武隈山地の避難地区の住民と震災前～震災後の様子や復興についてのパネル展・交流会の継続のための協議をおもにリモートで開催している。
13. 2021年2月9.10. 11日に収集した資料を基にしたパネル展を福島アオウゼで開催予定。交流会は縮小して開催予定。飯館村長泥と浪江町津島のパネル展を仙台市とさいたま市で巡回開催共催予定。
(コロナ禍にて感染予防は徹底したうえで検討)

<伴侶動物支援をとおしての減災>

1. 東京都内の当法人猫シェルター（第2種動物取扱者として東京都承認）とその周辺の協力個人宅にて、福島県内原発事故帰還困難地区よりの保護猫60～70頭のシェルターワークと里親探しを継続中。
2. 福島県内の被災関連のペット支援。立ち入り禁止区域の多頭飼育者の支援も継続中。
3. アマゾン社の動物支援プログラムにおける支援団体として登録されている。
OMUSUBI（お結び）保護犬猫里親探しより支援団体として登録されている。
それらを通して多くの人より物的・人的な支援を受けている。
4. 保護猫の里親探し、譲渡後の相談。
5. 保護している犬や猫も加齢により疾病が増えるが各個体に対して十分に医療を受けさせる。ひきつづき、被災者の避難先での飼育管理の援助。長期預かりは継続。
6. 避難先での犬や猫について、病気や感染症キャリアの管理の仕方などの相談、支援。
7. 災害を契機にした多頭飼育者支援では、信頼関係のもとに猫や犬の飼育方法について相談を受けている。医療面は費用が掛かるため、当法人でできることは援助。
飼育中の犬や猫の飼育環境はだいぶ改善。

<その他>

1. 福島県内被災地で活動する奉仕団体・個人との連携。情報の共有。
 - ・ 3. 11レスキュー日誌（浪江町）
 - ・ ふるさとと心を守る友の会（大熊町）
2. 福島県内被災地への訪問：毎週土曜日から日曜日、祝祭日
隔週の金曜日、月1回の月曜日